

授業科目 疫学

【担当教員名】 遠藤和男		対象学年	2	対象学科	看護
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：GIO】 <概要> 公衆看護学またその実践である地域保健活動にとって、根本的な理論が「疫学」であり、いわば原理と方法論である。 それに対して前期で学んだ統計学は、ある意味で道具である。この両者によって現在医療の現場で重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎について修得が可能なのである。 <一般目標：GIO> 証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、その原理としての疫学的考え方をを用いて、各種疾病の特徴を理解する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。 2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。 3. 各種疾病の原因を説明できる。 4. 各種疾病の予防対策を立てることができる。 5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	生存分析の方法：生命表の原理、生存分析の方法論について学ぶ。			1	講義
2	生存分析の応用：カプラン-マイヤー法を用いてEBMの実例を学ぶ。			1, 2	演習(レポート提出)
3	感染症の疫学1：感染症の疫学の特徴を学び、小グループで調べる。			5	講義＋小グループ活動
4	感染症の疫学2：小グループでの調査を続行。			1-5	小グループ活動
5	感染症の疫学3：小グループでの発表。			1-5	小グループ活動
6	職業病の疫学1：職業病の疫学の特徴を学び、小グループで調べる。			5	講義＋小グループ活動
7	職業病の疫学2：小グループでの調査を続行。			1-5	小グループ活動
8	職業病の疫学3：小グループでの発表。			1-5	小グループ活動
9	公害病の疫学1：公害病の疫学の特徴を学び、小グループで調べる。			5	講義＋小グループ活動
10	公害病の疫学2：小グループでの調査を続行。			1-5	小グループ活動
11	公害病の疫学3：小グループでの発表。			1-5	小グループ活動
12	生活習慣病の疫学1：生活習慣病の疫学の特徴を学び、小グループで調べる。			5	講義＋小グループ活動
13	生活習慣病の疫学2：小グループでの調査を続行。			1-5	小グループ活動
14	生活習慣病の疫学3：小グループでの発表。			1-5	小グループ活動
15	まとめ(レポートの書き方指導)			1-5	講義とレポート作成
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		はじめて学ぶやさしい疫学	田中平三、能勢隆之編	南江堂	2005・1,800円＋税
その他の資料		総合衛生公衆衛生学上・下巻		南江堂	1985・ほかの関連図書 は遠藤が持参。
【評価方法】 2種類のレポートと出席状況によって評価するが、発表のうまいグループの全員にボーナス点を与える可能性がある。			【履修上の留意点】 ※グループ分け及び第3回以降については、第2回目終了時に発表する。		